

平成25年（行ウ）第4、6号

吉野ヶ里メガソーラー発電所の移転を求める佐賀県民訴訟

## 意見陳述書

2013（平成25）年8月9日

佐賀地方裁判所民事合議2係 御中

原告 太田 記代子

原告の太田記代子と申します。

吉野ヶ里遺跡の発見者・神埼高校の故・七田忠先生の教え子の一人です。

先生は吉野ヶ里をはじめ佐賀の遺跡を守るため母校の大学教授のポストを辞退されて生涯、佐賀県の一高校教師を通された偉大な方だったことはプロジェクトXで報道された通りです。授業中「吉野ヶ里には日本の歴史を書き換えるものが埋まっている」と情熱的に語っておられたお姿を懐かしく思い起こします。

大学のセミナーのような高度な講義に私たち高校生は理解しがたい面もありましたが、先生の人的魅力と熱意に打たれて授業中静かに聞いたものです。歳を重ねた今、七田先生の熱意の意味が理解できるように思います。地図で俯瞰しますと、吉野ヶ里一帯が佐賀の宝であるばかりでなく、国の宝として特別の意味を持つことがお分り頂けましょう。

「北東に栄西禅師の日本初茶栽培の霊仙寺、北西に九年庵、南西に農業神・櫛稲田姫の櫛田神社、南西には平忠盛の日宋貿易関連の下中杖遺跡と広がり、中心に横たわる吉野ヶ里丘陵には、北に縄文時代の戦場ヶ谷遺跡があり、弥生の環濠集落と甕棺群、伊勢塚古墳、王仁神社、奈良時代の郡衙跡や官道と直線的に存在し非常に貴重」とは、考古学会の定説です。その中心的な場所のメガソーラー設置は歴史への冒瀆、後世への罪とさえ評されています。

この地はもともと粗末にしてはならぬと戒めて、2000年以上、大切に守られた聖域だった場所と地元では言い伝えが残っています。七田先生は、昭和9年、考古学会誌に、重要な遺跡として報告されています。今読んでも感動的な論文です。そののち、47年間、体を張ってこの一帯を守られましたが、昭和56年に亡くなられました。翌年、この吉野ヶ里の一部・67ヘクタールが工業団地として計画発表されました。早速、考古学者・江永次男先生を中心に「佐賀の自然と文化をまもる会」が保存要請を始められています。運動は困難を極めたようです。平成元年2月23日の朝日新聞一面トップに吉野ヶ里の

写真と「邪馬台国時代のクニ、佐賀県吉野ヶ里で発掘」と大きく載った記事を覚えておられる方も多いでしょう。NHK報道と相俟って、この日が吉野ヶ里ブームの始まりで翌日からマスメディアあがての報道のお蔭で沢山の来訪者があり、高松塚以来のブームと言われました。これは、奈良国立文化財研究所の佐原真先生が前日に来佐下さり発表された記事でした。

そののち、佐原先生は「吉野ヶ里の首なし人骨は兵士であろう。弥生時代から2000年以上戦っている歴史で、もう戦はやめようと平和を訴える遺跡」として意味があると話された言葉に七田先生の教えが重なり、中国引揚者の私は保存運動せざるべからずと背を押されました。今日は、奇しくも長崎で原爆の犠牲を経験した日であります。石持て戦いし時代とは違い核兵器のいま、平和を訴える遺跡としても世界中の人に発信すべき遺跡と考えます。

このメガソーラー設置部の27.5ヘクタールは平成3年7月1日に工業団地白紙撤回し景観は佐賀県が守るというスタンスで国営公園からはずし、南の117ヘクタールを国営公園に申請した部分です。平成4年10月に国営公園閣議決定、翌平成5年9月吉野ヶ里ニューテクノパークと横文字で工業団地案が再浮上、国にとっても、だまし討ちにあったような構想と言われています。この27.5ヘクタールは当初、建設省も国営公園にと計画しておられた場所です。

文化庁や建設省の良きタイプの官僚の方々も懸命に努力して国の特別史跡、国営公園にして下さったことを詳しく述べる時間がなくて残念です。センスの磨かれた高松宮妃殿下や天皇ご夫妻も吉野ヶ里を愛で「景観と共に保存を」とお言葉を残されています。

遺跡は景観とともにあってこそ価値があります。文化財保護法や景観法の示す通りです。

徐福、鑑真、王仁ゆかりの特別史跡として将来世界遺産を目指すべきと考古学会でも評価されております。日本の遺跡行政を変えた遺跡として記録保存ではなくメガソーラーは他に移して吉野ヶ里の素晴らしい景観を守って下さるよう伏してお願い申し上げます。